

幼児教育学科の概要

1. 幼児教育学科教育研究上の目的

幼児教育学科は、人間の成長や発達、また保育・教育の方法についての理解や専門性を深めるための教育研究を行うとともに、子どもへの愛情にあふれ、職場の人々や子どもの保護者さらに地域社会と豊かに交わるための高いコミュニケーション力を持った保育者として、社会に貢献できる人材の養成を目的とします。

2. 幼児教育学科の教育目標

保育の現場は、常に社会状況や時代背景と深く関わっています。少子化・高齢化・グローバル化・情報化が著しい現代において、学科の目的を現実のものとするには、時代に応じた目標設定が必要とされます。その際、就職した保育・教育現場で、時代の変化に応じて柔軟に保育・教育内容を構築できる創造力をどう養うか、また時代を超えて普遍的な資質とは何かといったことの研究も必要になります。幼児教育学科では、前身である初等教育学科以来の永い伝統と経験をもとに研究・検討を加えて、保育者としての高い専門性を培う高等教育を実現するために、学科の教育方針(学位授与の方針)を以下のように定めています。

■ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

幼児教育学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士(幼児教育学)の学位を授与します。

【知識・技能】

- ・現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。
- ・子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。
- ・幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。
- ・保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。

【主体性・多様性・協働性】

- ・幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。
- ・幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。
- ・幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。

3. 幼児教育学科の授業の概要

幼児教育学科の授業は、幼稚園教諭二種免許状や保育士資格を取得するために法的に定められている科目に加えて、学科の目標の実現に関わる科目が用意されています。学生はこれらの科目を適切に履修・修得することで卒業と同時に学位:短期大学士(幼児教育学)と幼稚園教諭二種免許状と保育士資格、認定ベビーシッター資格を取得することができます。

■カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

幼児教育学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成しています。

【教育課程の編成】

- ・保育者にふさわしい能力を有するために、専門的な方法論と知識及び技能を体系的に学ぶ。1年次には初年次教育を柱として、外国語活用能力や情報処理能力、健康や運動に関する知識や技能など短期大学士として身に付けておくべき資質の基礎を養う科目を開講している。専門科目は、1、2年次にわたって開講され、その中に幼稚園教諭二種免許状取得に関する科目、保育士資格取得に関する科目、加えて認定ベビーシッター資格を得るための科目を設置する。
- ・知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力などを総合的に学修し、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業を開講する。
- ・保育実習、教育実習を1年後期授業から2年後期授業にかけて行うため、それぞれの時期に合わせて実習前後の授業を開講する。



【教育内容】

(1) 学年ごとの教育内容

- ・1年次では、幼児教育・保育に関する基礎科目を受講し学修の基盤をつくる。また基礎理論となる科目を受講し、指導法について学び、保育者に求められるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、保育者としての観察力を養う。
- ・2年次では、すでに学んだ知識と技能を教育実習、保育実習での体験を通して実践につなげる。また演習科目では、教育・保育の専門的なテーマについての課題を見つけ、その研究方法・実践方法を修得し、問題解決力を養う。さらに、実習を踏まえて再度講義科目により総合的に学修することで、2年間の学びを確実なものとし、「学び続ける保育者」を育てる。

(2) 科目区分の教育内容

- ・「教育の基礎的理解に関する科目」では、「教育原理」、「教育心理」、「教職原論」の履修を通して基礎及び専門的な知識を身に付け、「保育に関する専門科目」では「保育原理」、「保育者論」の履修を通して保育者になるための心構えや対応力を会得し、保育者としてのあるべき姿を確立する。
- ・専門科目は、教育課程、保育内容（5領域）、幼児理解、保育原理、乳児保育、器楽、歌唱、造形に関する科目と、これらを統合し有機的な理解を深める演習科目で構成される。
- ・「教職関連科目」では、保育者としてのキャリアについて探求する「保育者のキャリア形成論」、現代の教育・保育の専門的テーマについての課題に取り組む「学科特別演習Ⅰ・Ⅱ」を開講する。

【教育方法】

- ・知識の修得だけでなく主体的な学びを促し、他者との協調・協働を取り入れながら柔軟な発想を生み出す資質・能力を身に付ける。
- ・指導法に関する授業では、実際の保育場面を想定した模擬保育やグループワーク等を取り入れて実践的な力を養う。
- ・表現に関する授業（音楽・造形・身体）では、教育・保育現場の多様な場面を見据えた実技を行うことにより、創造性を形成する。
- ・実習に関わる授業では、実習前後の学びを確実なものにすることで、実習がより生きた学修となるよう位置付ける。
- ・2年次に実施する「学科特別演習Ⅰ・Ⅱ」は、幼児教育・保育の専門的テーマについての課題や必要となる実践力等についてワークショップやグループディスカッション、保育現場での発表や交流等を行うことで、一人ひとりが学びの主体者となり自ら考え表現する力を培う。また少人数制で取り組み、実践的な知識と技術を身に付けた自己表現力と問題解決力を醸成する。

【学修成果の評価方法】

- ・講義科目および演習科目は、試験、発表、レポートなどにより総合的に評価する。試験では授業内容の理解と学修到達度、発表・レポートでは発表内容と成果物の充実度により評価する。
- ・実習後の自己課題・解決に取り組む「保育・教職実践演習（幼稚園）」では、学びの履歴を蓄積した履修カルテ等で自身の振り返りを重視した評価をする。

卒業要件単位数（幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得者）

下の表を参考にして、履修漏れのないように注意して単位を修得してください。

	教養科目	専門科目	合計
卒業	12単位以上	50単位以上	62単位以上
幼稚園二種免許状取得者	12単位以上	50単位以上	62単位以上
保育士資格取得者	12単位以上	64単位以上	76単位以上
幼二種・保育士資格取得者	12単位以上	81単位以上	93単位以上

*幼稚園教諭二種免許状や保育士資格では、取得に必要な科目を修得しなければなりません。詳しくは、pp. 70～72で確認のこと。

免許・資格について

幼稚園教諭二種免許状について

1. 本学幼児教育学科は、幼稚園教諭二種免許状の授与を受けるために必要な教員養成課程を持つものとして文部科学省から認定されています。学生は、本学卒業要件に加え、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目の単位を修得することにより、卒業と同時に免許状が取得できます。

なお、免許状取得に必要な科目には次の教育実習が含まれていることに注意してください。

幼稚園での教育実習 3週間

教育実習においては学内教員が実習中及び前後においても、実習に関する指導・サポートを行います。

2. 免許状を授与する授与権者は、大学ではなく都道府県教育委員会です。これに関わる手続きは、本学で一括して兵庫県教育委員会に申請を行います。その際必要となる事柄については、2年次後期に教職支援センターから説明会がありますので、必ず出席してください。
3. 免許状取得申請に限らず、免許状取得までには大学からの幾つもの説明会があります。教職支援センターによる実習園決定までの手続き説明会や教育実習訪問担当教員による学内実習事前・事後指導はその一例です。これらの説明会を無断欠席した場合や必要な提出物を期限内に提出しないと免許状取得に重大な影響が生じ、場合によっては免許状取得が出来なくなることもありますので、日頃から説明会の案内を見落とさないようにしてください。

保育士資格について

1. 保育士資格とは、保育所を含む児童福祉施設などで専門的知識を持って子どもの保育および保護者支援を行うものに与えられる厚生労働省所管の国家資格です。

本学幼児教育学科は厚生労働省から保育士養成施設としての指定を受けています。したがって、所定の単位を履修すれば幼児教育学科卒業時に保育士資格を取得することができます。なお、資格取得のためには、在学中に、次の保育実習を行わなければなりません。

保育所での実習 保育実習Ⅰ（保育所）

1年次後期授業終了後 10日以上、80時間以上

児童福祉施設（保育所を除く）での実習 保育実習Ⅰ（施設）

2年次前期授業終了後 10日以上、80時間以上

保育所または児童福祉施設（保育所を除く）での実習 保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲのいずれか一方

2年次前期授業終了後 10日以上、80時間以上

保育実習においては学内教員が実習中及び前後においても、実習に関する指導・サポートを行います。

2. 資格を授与する授与権者は、都道府県知事です。保育士資格に関わる単位修得後の保育士登録の手続きは、大学で一括して「登録事務センター」に申請します。申請要領については2年次後期に別途教職支援センターより説明します。なお、保育士証そのものは、「登録事務センター」の事務処理が終わる5月末から6月中旬あたりに「登録事務センター」から直接手元に送付されてきます。
3. 資格取得申請に限らず、資格取得までには大学からの幾つもの説明会や連絡があります。たとえば保育実習先は大学が学生の現住所等を考慮して決定しますが、その結果の連絡や実習訪問担当教員による学内実習事前・事後指導はその一例です。これらの説明会を無断欠席した場合や必要な提出物を期限内に提出しないと資格取得に重大な影響が生じ、場合によっては資格取得が出来なくなりますので、日頃から説明会の案内を見落とさないようにしてください。

社会福祉主事任用資格について

1. 社会福祉主事任用資格とは、都道府県や市町村の福祉事務所等で任用されるために必要となる資格です。この「社会福祉主事任用資格」を元に現場での経験を重ねれば、社会福祉領域のさらに広い分野で働くことも可能です。
2. 社会福祉主事任用資格は、厚生労働大臣が指定する社会福祉に関する科目から3科目以上の単位を修得することによって、取得することができます。
3. 幼児教育学科においては、保育士資格取得に必要な科目「保育原理」、「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「教育原理」等から3科目以上の単位を修得すると資格が取得できます。
4. その他の科目においても、読み替えが可能な科目があります。詳しくは、学科教員に相談してください。

認定ベビーシッター資格について

1. 認定ベビーシッターとは、ベビーシッターとして必要な職業倫理を備え、専門知識・技術を有し、さらにそれに基づく実務経験を有している者です。
2. 本学幼児教育学科は、公益社団法人全国保育サービス協会から認定ベビーシッター資格取得指定校として指定を受けています。したがって、保育士の資格取得に必要な単位と、更に「在宅保育」の単位も取得し、卒業（見込みも含む）した者のうち、希望者に「認定ベビーシッター」資格が付与されます。施設（集団）保育のプロである“保育士”資格と、個別（在宅）保育のプロである“ベビーシッター”の資格を併せ持った保育士が誕生し、各現場での活躍が期待されます。



授業が始まったら
すぐ必要なことから

教職課程について

(幼稚園教諭二種免許状)

1 幼児教育学科の教員養成の理念

神戸女子短期大学は、「建学の精神」及び「教育綱領」に基づいて、高い識見を身に付けた心豊かな自立した女性を育成することを理念に掲げ、人類社会の発展に貢献する次世代の教育を担う優れた人材を養成するために、幼児教育学科に幼稚園教諭二種免許状を取得するための教員養成課程を設置しています。併せて、幼児教育学科に保育士養成課程を設置しています。

本学の教員養成に対する理念は、

- ・人間の成長や発達について専門的理解を持ち、愛情にあふれた教師
- ・豊かな教養と深い専門的知識を身に付けた実践的指導力のある教師
- ・自立心・対話力・創造性を備えた高い専門的資質と人間性を身に付けた教師
- ・教師としての使命感と誇りを持ち、教育の専門家として主体的に自己を向上させる教師

を育成することです。

幼児教育学科は、人間の成長や発達について専門的理解を持ち、子どもへの愛情にあふれ、職員や保護者さらに地域の人々と豊かに交わることのできる保育者としての高い資質を備え、社会にとって有為な自立した女性を育成することを目的としています。

この教育目的を基本として、幼児と触れ合う機会を多く持ち、幼児理解に努め、一人ひとりの育ちに応じた援助や指導ができ、自己課題や保育観を問い続け専門的知識や指導実践力を有する保育者を養成します。

2 各段階の到達目標

教職課程の履修にあたり、各段階で修得すべき事項は次のとおりです。

1 年次前期

「教職原論」「教育原理」「教育課程論」「保育内容の指導法」「幼児理解の理論・方法」等を履修し、幼児教育の理論や技能に関する基礎・基本を修得する。幼児に対する見方や保育観に触れることにより、これからの学修への動機と見通しを確かなものにし、幼児教育の基本的な考え方を身に付ける。

1 年次後期

「教育実習指導」「教育課程論演習」「教育心理学」「特別支援教育」等を通して、2年次の教育実習に向けて実践的指導力や保育に関する専門的知識を身に付け、保育者として必要な技能を修得する。

2 年次前期

「教育実習」で様々な幼児と向き合う中で理論と実践のかかわりを体験し、既習の保育諸領域の知識・技能を確かめながら、保育者として指導や援助に必要な専門的知識及び技能を身に付ける。幼児の成長と発達を理解し、思いを受け止め、支援できる保育者をめざして、実践的指導力を修得する。

2 年次後期

「教育実習」を振り返り、自己課題を克服するための実践力や知識を身に付け、自己教育力を修得する。「保育・教職実践演習（幼稚園）」の履修では、保育者として何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能を補い、教職生活に入る前に専門性と社会性、実践的な指導力を身に付ける。教職理解とともに自己理解を図り、幼児と向き合える資質（意欲・情熱）を修得する。

3 教職課程の履修要件

1. 教育職員免許状は、教育職員免許法・同施行規則に規定する必要単位を履修し、教育職員として適格であると認められた者に授与されます。
2. 教育職員免許状を取得しようとする場合には、1年次後期に教育実習指導を、2年次において教育実習（3週間）を履修しなければなりません。
3. 教育実習を履修しようとする学生は、次の各項を充足する者でなければなりません。

① 以下に掲げる科目を履修済みであること。

「教職原論」「教育原理（教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む）」「幼児理解の理論・方法」「教育実習指導」

② 心身ともに健康であること。

- ③ 教育職員志望の意思が明確で、教育実習指導および教育実習を履修しようとする意志が強固であること。
- ④ 幼稚園等の教育職員採用試験を受験する予定であること。
- ⑤ 科目履修、ならびに出席の状況が良好であり、特に教職に関する専門科目につき、相当の成績を修めていること。
- ⑥ 教育実習のためのオリエンテーション、その他の事前指導を確実に受けていること。

以上の諸要件に反したときは、その時点において、教育実習の申請を取り消すものとします。

4. 1年次前期・後期を通じて成績が著しく劣り、また教師としての適格性に欠けると認められる場合には、教育実習の履修辞退が勧告されます。

5. 教育実習を履修しようとする場合は、教育実習費を指定された期日までに納付しなければなりません。



授業が始まっても
すぐ必要なことから

保育士養成課程について

(保育実習履修要件)

保育実習科目を履修しようとする学生は、「神戸女子短期大学保育実習履修資格についての細則」に示している次の各項を充足する者でなければなりません。

- ① 心身の状況並びに学修態度において実習の準備が整っていること。
- ② 保育士志望の意思が明確で、全ての保育実習を履修するという意思が強固なこと。
- ③ 保育士養成課程のうち、下記の学科が定める専門科目を該当時期までに履修し、相当の成績を修めている、または、修める見込みのあること。

<保育実習Ⅰ（保育所）までに修得すべき必修科目>
保育原理、教育原理、保育者論、社会福祉

<保育実習Ⅰ（施設）までに修得すべき必修科目>
保育原理、教育原理、保育者論、社会福祉、保育実習指導Ⅰ（事前）、社会的養護Ⅰ

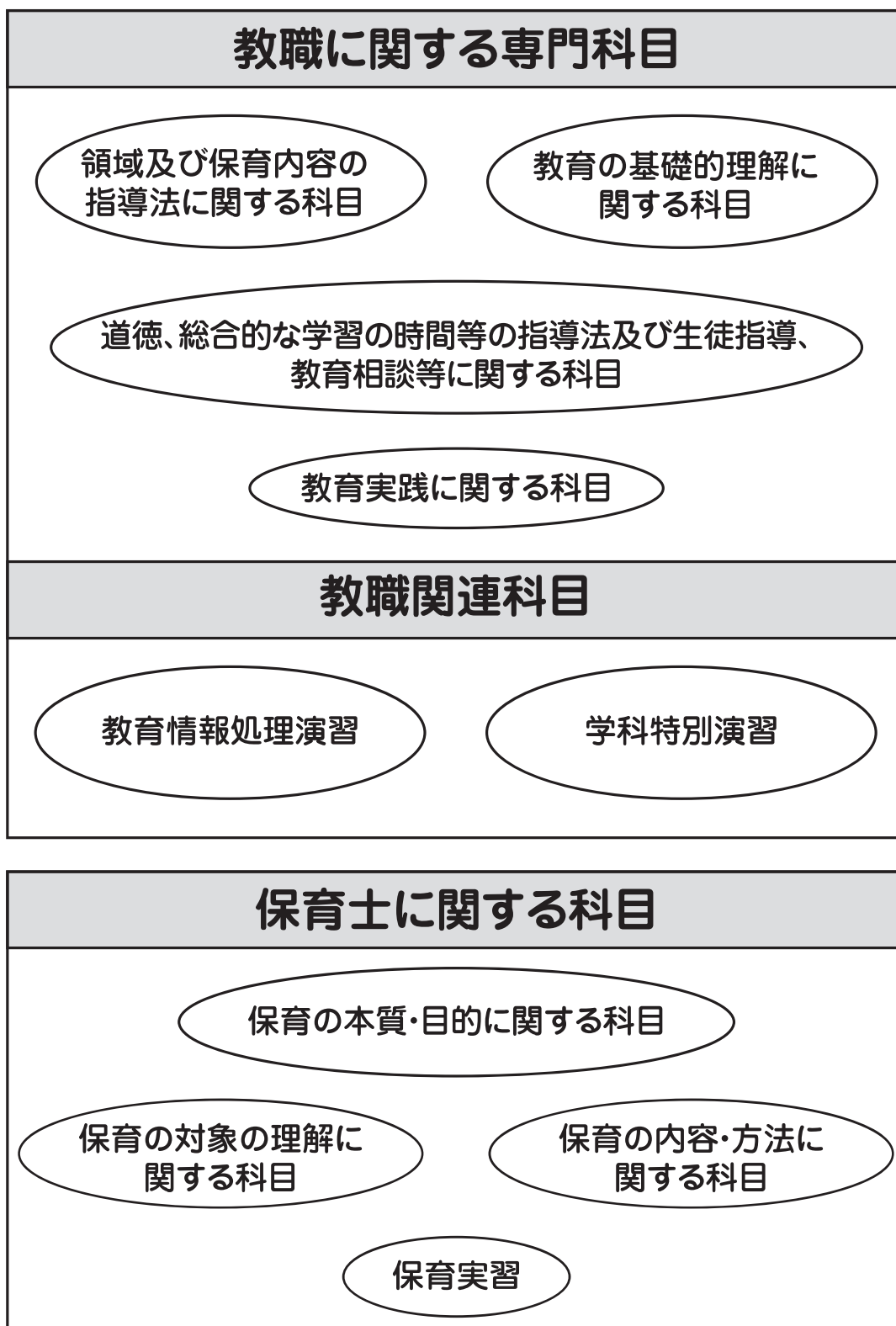
<保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲまでに修得すべき必修科目>
保育実習指導Ⅰ（事前）、保育実習Ⅰ（保育所）

保育実習には順序性があり、「保育実習Ⅰ（保育所）」又は「保育実習Ⅰ（施設）」を修得（見込み）した者のみ、「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」を履修し、それらの実習を行うことができる。

※「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」を履修登録済みであったとしても、「保育実習Ⅰ（保育所）」又は「保育実習Ⅰ（施設）」が未修得となった段階で、それらの実習の履修に関しては削除しなければならない。

- ④ 保育実習のための学内説明会、実習施設(含む保育所)が行う事前指導、保育実習訪問担当教員による学内事前指導など、実習に関わる全ての事前説明・指導を確実に受けていること。
- ⑤ 実習に関わる各種の提出物を、指定期日までに提出していること。
- ⑥ 実習辞退勧告を受けていないこと。
- ⑦ 保育実習費を指定された期日までに納付していること。

※特別な事情により上記条件を充たせない者については、学科で協議の上対処する。



専門科目

幼児教育学科

[表中の記号説明]

単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
()－実験・実習・実技科目

年次欄 ●●－通年の開講

授 業 科 目		単 位 数		備 考	1 年 次		2 年 次		
		必 修	選 択		前 期	後 期	前 期	後 期	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と健康		2				○	
		幼児と人間関係		2				○	
		幼児と環境		2		○			
		幼児と言葉		2				○	
		幼児と表現Ⅰ		2				○	
		幼児と表現Ⅱ		2				○	
	保育内容の指導法	保育内容の指導法（健康）		[1]	6 単位以上 選択必修		○		
		保育内容の指導法（人間関係）		[1]		○			
		保育内容の指導法（環境）		[1]			○		
		保育内容の指導法（言葉）		[1]		○			
		保育内容の指導法（表現Ⅰ）		[1]			○		
		保育内容の指導法（表現Ⅱ）		[1]			○		
		保育内容の指導法（表現Ⅲ）		[1]					○
教育の基礎的理解に関する科目	教職原論	2			○				
	教育原理（教育史及び社会的、制度的又は経営的 事項を含む）	2			○				
	教育心理学	2				○			
	特別支援教育		2			○			
	教育課程論		2		○				
	教育課程論演習		[1]			○			
道徳、総合的な学習 の時間等の指導法及 び生徒指導、教育相 談等に関する科目	教育の方法・技術		2					○	
	幼児理解の理論・方法		2		○				
	教育相談の理論・方法（カウンセリングを含む）		2					○	
教育実践に 関する科目	教育実習指導		[1]			○			
	教育実習		(4)				●	●	
	保育・教職実践演習（幼稚園）		[2]					○	



授業が始まって
すぐ必要なことから

授 業 科 目	単 位 数		備 考	1 年 次		2 年 次	
	必 修	選 択		前 期	後 期	前 期	後 期
教職関連科目	教育情報処理演習		[1]		○		
	学科特別演習Ⅰ	[1]				○	
	学科特別演習Ⅱ	[1]					○
	保育者のキャリア形成論		2		○		
	音楽 A		[1]	○			
	音楽 B		[1]		○		
	音楽 C		[1]			○	
保育に関する専門科目	保育原理	2		○			
	子ども家庭福祉		2			○	
	社会福祉		2	○			
	子ども家庭支援論		2		○		
	社会的養護Ⅰ		2		○		
	社会的養護Ⅱ		[1]			○	
	保育者論	2		○			
	子ども家庭支援の心理学		2		○		
	子どもの理解と援助		[1]			○	
	子どもの保健		2			○	
	子どもの食と栄養Ⅰ		[1]			○	
	子どもの食と栄養Ⅱ		[1]				○
	保育内容総論		[1]		○		
	乳児保育Ⅰ		2		○		
	乳児保育Ⅱ		[1]			○	
	子どもの健康と安全		[1]				○
	障害児保育Ⅰ		[1]			○	
	障害児保育Ⅱ		[1]				○
	子育て支援		[1]			○	
	保育実習Ⅰ（保育所）		(2)			○	
	保育実習Ⅰ（施設）		(2)			○	
	保育実習指導Ⅰ（事前）		[1]			○	
	保育実習指導Ⅰ（事後）		[1]				○
	食育論（子どもと食生活）		2			○	
	在宅保育		2				○
	▲ 造形表現研究		[1]				○
	保育実習Ⅱ		(2)				○
	保育実習Ⅲ		(2)				○
	保育実習指導Ⅱ		[1]			○	
	保育実習指導Ⅲ		[1]			○	
計	12	84	卒業要件単位数は 50 単位以上				

▲廃止予定科目

幼稚園教諭二種免許状取得に関する科目（再掲）

〔表中の記号説明〕
 単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
 ()－実験・実習・実技科目
 年次欄 ●●－通年の開講

教育職員免許法施行規則に定められた科目区分		本学授業科目						
		授業科目	要件単位数		1年次		2年次	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期
規則第66条の6に定める科目		日本国憲法	2		○			
		体育講義	2		○			
		体育実技	(1)				○	
		英語コミュニケーション(a)	(1)		○			
		英語コミュニケーション(b)	(1)			○		
		情報A	(2)		○			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と健康	2					○
		幼児と人間関係	2					○
		幼児と環境	2		○			
		幼児と言葉	2					○
		幼児と表現Ⅰ	2				○	
		幼児と表現Ⅱ	2				○	
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容の指導法（健康）	(1)			○		
		保育内容の指導法（人間関係）	(1)		○			
		保育内容の指導法（環境）	(1)			○		
		保育内容の指導法（言葉）	(1)		○			
		保育内容の指導法（表現Ⅰ）	(1)			○		
		保育内容の指導法（表現Ⅱ）	(1)			○		
		保育内容の指導法（表現Ⅲ）	(1)				○	
		保育内容の指導法（表現Ⅳ）	(1)					○
大学が独自に設定する科目		〔大学が独自に設定する科目〕の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」について併せて2単位以上を修得						
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理（教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む。）	2		○			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教職原論	2		○			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教育心理学	2			○		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	特別支援教育	2			○		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	教育課程論	2		○			
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論演習		(1)		○		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）							
等指導、学習の時間等の総合的な教育に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法・技術	2					○
	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論・方法	2		○			
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論・方法（カウンセリングを含む）	2					○
科目に教育実践に関する	教育実習	教育実習指導	(1)			○		
		教育実習	(4)				●	●
	教職実践演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	(2)					○
計			51	1	免許状取得必要単位数 51 単位以上			

(注) 幼稚園教諭二種免許状取得のためには、「基礎資格」として、短期大学士の学位取得（短期大学卒業）が要件となります。

保育士資格取得に関する科目（再掲）

〔表中の記号説明〕

単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
 ()－実験・実習・実技科目

指定科目区分		本学授業科目							
		授業科目	要件単位数		備 考	1年次		2年次	
			必修	選択		前期	後期	前期	後期
告示に定める科目	教養科目	教育学		2	9 単位以上		○		○
		日本国憲法	2			○			
		情報 A	[2]			○			
		英語コミュニケーション (a)	[1]			○			
		英語コミュニケーション (b)	[1]				○		
		体育講義	2			○			
		体育実技	(1)						○
告示別表第 1 に定める科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2			○			
		教育原理（教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む）	2			○			
		子ども家庭福祉	2					○	
		社会福祉	2			○			
		子ども家庭支援論	2				○		
		社会的養護 I	2				○		
		保育者論	2			○			
	保育の対象の理解に関する科目	教育心理学	2				○		
		子ども家庭支援の心理学	2				○		
		子どもの理解と援助	[1]					○	
		子どもの保健	2					○	
		子どもの食と栄養 I	[1]					○	
		子どもの食と栄養 II	[1]						○
	保育の内容・方法に関する科目	教育課程論	2			○			
		保育内容総論	[1]			○			
		保育内容の指導法（健康）	[1]				○		
		保育内容の指導法（人間関係）	[1]			○			
		保育内容の指導法（環境）	[1]				○		
		保育内容の指導法（言葉）	[1]			○			
		保育内容の指導法（表現 I）	[1]				○		
		保育内容の指導法（表現 II）	[1]				○		
		保育内容の指導法（表現 III）	[1]					○	
		音楽 A	[1]			○			
		音楽 B	[1]				○		
		乳児保育 I	2			○			
		乳児保育 II	[1]				○		
		子どもの健康と安全	[1]						○
		障害児保育 I	[1]					○	
障害児保育 II	[1]						○		
社会的養護 II	[1]					○			
子育て支援	[1]					○			



授業が始まって
 すぐ必要なことから

指定科目区分		本学授業科目							
		授業科目	要件単位数		備 考	1年次		2年次	
			必 修	選 択		前 期	後 期	前 期	後 期
告示別表第1に定める科目	保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）	(2)				○		
		保育実習Ⅰ（施設）	(2)					○	
		保育実習指導Ⅰ（事前）	[1]				○		
		保育実習指導Ⅰ（事後）	[1]						○
	総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	[2]						○
告示別表第2に定める科目	保育の対象の理解に関する科目	食育論（子どもと食生活）		2			○		
	保育の内容・方法に関する科目	幼児と健康	2						○
		幼児と環境	2			○			
		幼児と言葉	2						○
		幼児と表現Ⅰ	2					○	
		幼児と表現Ⅱ	2					○	
		音楽C		[1]				○	
		在宅保育		2					○
		造形表現研究		[1]				○	
	保育実習	保育実習Ⅱ		(2)	} 2単位以上				○
		保育実習Ⅲ		(2)					○
		保育実習指導Ⅱ		[1]	} 1単位以上			○	
		保育実習指導Ⅲ		[1]				○	
計			70	14	資格取得必要単位数 73単位以上				